

ARCTIC CHALLENGE FOR SUSTAINABILITY

2017年度北極域研究推進プロジェクト公開講演会 in ISAR-5*

北極の未来と科学

2018年 1月 15日 (月)
17:00 ~ 19:30 開場 16:30



—北極域の持続可能な開発とは？
—科学は何を目指し、どのように関与しようとしているのか？
政策論や地球環境問題のスペシャリスト、
そして北極研究の最前線に立つ研究者とともに考えてみませんか？

グリーンランド・カナック周辺 (撮影：北海道大学 杉山慎)

一橋講堂

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 2F
東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 (A8・A9 出口) 徒歩 4分
東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口) 徒歩 4分

参加無料 先着 400 名様



■共同主催



■後援



■申込・詳細▶▶▶



*2017年度北極域研究推進プロジェクト公開講演会は2018年1月15日～18日に行われる第5回国際北極研究シンポジウム (ISAR-5) の初日に実施します。

北極の未来と科学

2015年秋に開始した北極域研究推進プロジェクト（ArCS）、3回目の公開講演会は、北極域の持続可能性とはどうあるべきかを考えます。北極域開発の必要性や重要性について、政策および科学と社会の連携といった広い視点からお話しするとともに、科学はそれらに対しどのような根拠を提供できるのか、最新の研究成果を交えてご紹介します。

●ゲストスピーカーによる講演

北極域の『危機』～『危うさ』と『機会』のバランスを求めて～

17:15 - 17:40



角南 篤（政策研究大学院大学 副学長／笹川
平和財団 海洋政策研究所 所長）

北極域開発の重要性、そして北極域の開発が持続的に行われる必要性と、それに伴う危険性についてお話しします。

持続可能な地球の未来と北極

17:40 - 18:05



春日 文子（フューチャー・アース国際事務局
日本ハブ事務局長／国立環境研究所 特任フェ
ロー）

社会や産業の発展と地球環境の双方の持続可能性を追求するために、科学者と社会はどのように協働すべきかについてお話しします。

●ArCS 参加研究者による講演

北極域環境の実態把握と将来予測

18:25 - 18:50



羽角 博康（海洋研究開発機構 招聘上席研究員
／東京大学 大気海洋研究所 教授／ArCS テー
マ5 実施責任者）

北極域環境の変動は日本を含む中緯度地域や全球に及びます。その関係や、長期気候変動予測とのつながりについてお話しします。

北極域先住民の文化と日本・世界をつなぐための創造力

18:50 - 19:15



高倉 浩樹（東北大学 東北アジア研究センター
センター長・教授／ArCS テーマ7 実施担当者）

北極域の環境変動によって、そこに暮らす先住民の社会制度や生産活動がどのような影響を受けているのかについてお話しします。



司会
室山 哲也氏（日本放送協会 解説委員）

※プログラムは都合により変更する場合があります。



一橋講堂

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 2F

東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅（A8・A9 出口）徒歩 4 分

東京メトロ東西線 竹橋駅（1b 出口）徒歩 4 分

■お問い合わせ先

情報・システム研究機構 国立極地研究所

国際北極環境研究センター

e-mail: arcs@nipr.ac.jp TEL: 042-512-0915

■申込・詳細

<https://www.arcs-pro.jp/20180115kouenkai/>

